

医療従事者のための 「遺伝カウンセリングの理解」

演者

千代 豪昭 (ちよ ひであき) 先生

演者のプロフィール:

1971年大阪大学医学部卒、神奈川県立こども医療センター(遺伝科シニアレジデント)、兵庫医科大学遺伝学講座(助教授)、西独キール大学小児病院細胞遺伝部、金沢医科大学人類遺伝学研究所臨床遺伝部門(主任助教授)、大阪府環境保健部(看護大学設立準備室担当副理事)、府立看護大学教授、お茶の水女子大学遺伝カウンセリング講座(修士・博士課程)教授を経て、現在は大阪の夫律子マタニティクリニック顧問。長年にわたって認定遺伝カウンセラーの制度化と養成に従事。2011年の東日本大震災では、1年半にわたって被曝不安に悩む住民を対象に現地ボランティア活動。日本人類遺伝学会名誉会員。81歳



G I O :

ゲノム時代を迎えて、医療技術の方法論は大きく変わりつつあります。医療従事者にとっても先端的なゲノム科学の理解は容易ではありませんが、遺伝的変異を告知された一般患者や家族にとっても、疾患の理解や「受容」、さらに「好ましい行動変容」は極めて難しくなっています。「カウンセリング」は単なる「告知」ではなく、告知後の「好ましい行動変容」をめざした行為です。講義では、ロジャースのクライアント中心療法に基づいたカウンセリング理論をもとに、遺伝性疾患の告知技術(カウンセリング技術)について紹介したいと思います。また、生命を対象とした医療そのものが、患者自身の自己保存本能や功利主義的背景に繋がりがやすいので、医療従事者としての倫理的な立場も重要です。倫理的対応技術として、ピーチャムの理論(倫理分析理論)と技術について、時間が許す限り触れたいと思います。

令和7年

日時

5月14日 水 17:30~18:45

場所

教育医療棟5階シミュレーション室

対象者

獨協医科大学全学生および全教職員
事前の申し込みは不要です

主催: 公衆衛生学講座

共催: 遺伝・ゲノム診療部

連絡先: 内線2269 E-mail gk-dph@dokkyomed.ac.jp